

湯河原ロータリークラブ



WEEKLY REPORT

心の中を見つめよう
博愛を広げるために

第 2413回 例会

平成23年8月26日(金)

天候 曇り

合唱 我等の生業

四つのテスト

会 長 伊藤 伸之

幹 事 望月 博文

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町土肥 1-14-25

中川方 TEL/FAX 0465(62)3056

例会場 静岡県熱海市泉 107/TEL0465(63)3721

ニューウェルシティ湯河原

例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

伊藤会長よりご親戚にご不幸がありまして、本日、例会を欠席されるとの連絡がありましたので会長代行と致しましての挨拶を申し上げます。

八月もあと数日で終わろうとしておりますが、つい2~3日前涼しさが続きましてほっと致したものの、その後また蒸し暑さが振り替えてまいりました。

しかし朝晩はひんやりとした秋の気配が感じられます。

会員の皆様には、御身体に十分気をつけて頂き、ご自愛くださいますようお願い致します。

以上、簡単で恐縮ですが、開会の挨拶と致します。

(常盤章夫副会長)

幹事報告

ガバナー

1. 9月のロータリーレート 1ドル=78円

2. 2011~12年度奉仕プロジェクト事例紹介セミナー

9/14(水) 14:30~16:30

ガバナー事務所

(藤沢南口 相澤ビル5F)

3. 地区ローターアクト

「小田原清掃活動」申込書

9/10(土) 9:15

JR小田原駅改札口 集合

11:50 開会式 登録料 2000円

雑 件

1. 情報集会

8/31(水) 午後6時

ドミンゴ 会費 5000円

スマイルBOX

土屋一弘君 健康に感謝いたします

出席報告	ゲスト及びビジター 0名		
	会員 26名	欠席 6(3)名	出席率 86.95%
	前回の修正出席率 95.65%		前々回の修正出席率 91.30%

卓 話

高橋延幸君

8月は終戦記念日がございまして、1945年8月15日に昭和天皇より終戦の詔勅が発表されました。私はもちろん当時は存在してはいませんでした、今それを聞いても意味が理解できませんでした。パソコンにその口語訳がありましたのでここで述べさせていただきます。

玉音放送

私は、深く世界の大勢と日本国の現状とを振り返り、非常の措置をもって時局を收拾しようと思ひ、ここに忠実かつ善良なあなたがた国民に申し伝える。私は、日本国政府から米、英、中、ソの四国に対して、それらの共同宣言（ポツダム宣言）を受諾することを通告するよう下命した。そもそも日本国民の平穩無事を図って世界繁栄の喜びを共有することは、代々天皇が伝えてきた理念であり、私が常々大切にしてきたことである。先に米英二国に対して宣戦した理由も、本来日本の自立と東アジア諸国の安定とを望み願う思ひから出たものであり、他国の主権を排除して領土を侵すようなことは、もともと私の望むところではない。ところが交戦はもう四年を経て、我が陸海将兵の勇敢な戦いも、我が多くの公職者の奮励努力も、我が一億国民の無私の尽力も、それぞれ最善を尽くしたにもかかわらず、戦局は必ずしも好転していないし、世界の大勢もまた我国に有利をもたらしていない。それどころか、敵は新たに残虐な爆弾（原爆）を使用して、しきりに無実の人々までをも殺傷しており、惨澹たる被害がどこまで及ぶのか全く予測できないまでに至った。なのにまだ戦争を継続するならば、ついには我が民族の滅亡を招くだけでなく、ひいては人類の文明をも破滅しかねないであろう。このようなことでは、私は一体どうやって多くの愛すべき国民を守り、代々の天皇の御霊に謝罪したら良いというのか。

これこそが、私が日本国政府に対し共同宣言を受諾（無条件降伏）するよう下命するに至った理由なのである。

私は、日本と共に終始東アジア諸国の解放に協力してくれた同盟諸国に対しては遺憾の意を表せざるを得ない。日本国民であつて前線で戦死した者、公務にて殉職した者、戦災に倒れた者、さらにはその遺族の気持ちに想いを寄せると、我が身を引き裂かれる思いである。

また戦傷を負つたり、災禍を被つて家財職業を失つた人々の再起については、私が深く心を痛めているところである。

考えれば、今後日本国の受けるべき苦難はきっと並大抵のことではなからう。あなたがた国民の本心も私はよく理解している。

しかしながら、私は時の巡り合せに逆らわず、堪えがたくまた忍びがたい思ひを乗り越えて、未来永劫のために平和な世界を切り開こうと思うのである。

私は、ここに国としての形を維持し得れば、善良なあなたがた国民の真心を拠所として、常にあなたがた国民と共に過ごすことができる。

もし誰かが感情の高ぶりからむやみやたらに事件を起したり、あるいは仲間を陥れたりして互いに時勢の成り行きを混乱させ、そのために進むべき正しい道を誤つて世界の国々から信頼を失うようなことは、私が最も強く警戒するところである。

ぜひとも国を挙げて一家の子孫にまで語り伝え、誇るべき自国の不滅を確信し、責任は重くかつ復興への道のりは遠いことを覚悟し、総力を将来の建設に傾け、正しい道を常に忘れずその心を堅持し、誓つて国のあるべき姿の真髓を発揚し、世界の流れに遅れを取らぬよう決意しなければならない。

あなたがた国民は、これら私の意をよく理解して行動せよ。